

# 「英語教育改善プラン」に基づいた教員の英語力・指導力向上に向けた取組 「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～香川県～

## 課題

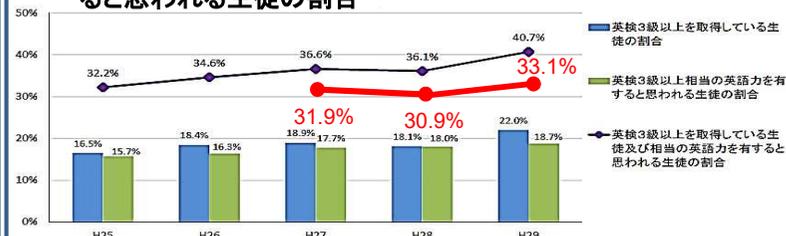
- 児童・生徒同士が即興的に伝え合うコミュニケーション活動・・・目的、場面、状況等を明確にしたコミュニケーション活動の導入
- CAN-DOリストの生徒への公表促進、生徒の自己評価能力の向上・・・生徒の学習の振り返りや教員の指導改善に活用
- 小学校教員の英語指導力・英語力の向上・・・授業展開事例公開授業、クラスルームイングリッシュの積極的活用

## 具体的な取組の内容

- **英語教育推進リーダーによる研修会や公開授業**
  - ・外国語活動・英語指導力・英語力向上研修(小・中学校各50名程度)
  - 小学校外国語教材「We Can!」を中心に、実際の授業を想定した模擬授業等を取り入れた体験重視の研修
  - ・推進リーダーによる公開授業及び授業研究(約150名参加)
  - 公開授業後大学教授等から指導・助言をいただく。
- **小・中・高等学校外国語ワークショップ(約350名参加)**
  - ・小学校教員には、中学年での外国語活動、高学年での教科化についての研修を行い指導力の向上を図る。
  - ・中学校教員には、民間企業を招聘した研修を実施し、パフォーマンス評価や英語力を身に付けさせるための具体的指導等について研修を行う。
- **小・中・高一貫したCAN-DOリストを活用した指導・評価**
  - ・「英語を使って何ができるようになるか」の視点で、児童生徒の学びを『見える化』し、『つなぐ』
  - ・PDCAサイクルに基づいた授業改善
- **小学校英語教科化に向けた専門性向上のための講習**
  - ・香川大学と連携し、小学校教員に中学校英語教員二種免許の取得推進

## 成果と課題

### ◆ 英検3級以上を取得している生徒及び相当の英語力を有すると思われる生徒の割合



### ◆ 英検準1級以上相当を取得している中学校教員の割合



国の目標は、平成29年度までに50%以上

- 公開授業や研究外国語ワークショップへの参加者が増加
- 小・中学校での学習の関連について、理解しようとする教員の増加

## 課題解決のための手立て

- **民間企業を招聘した英語指導力・英語力向上研修の実施**
  - ・中学校教員(約200名参加); 1日 小・中・高校教員(約100名参加); 半日
- **外部検定試験(TOEIC)の受験料補助と試験の実施(100名参加)**
- **県内公立中学校2年生全員を対象に、民間企業のスピーキングテストを実施**
- **英語教育充実のための小中連携推進協議会の開催**
  - ・英語学習における小中連携を推進するために、県内各小・中学校の英語担当教員が1名ずつ参加して、小中連携における留意点などを周知
  - 双方の授業改善に役立っている。

## 成果の波及・周知について

- これまでの実践事例や指導案例、ワークシート等は、県教育センターのホームページに掲載し、県内各学校での活用、普及に努めている。
- 研究指定校やモデル校の実践については、積極的に「香川の教育づくり」に参加してもらい、そこでの発表を通して、実践例を広めていくように努めている。
- 研修会の際に、これまでの実践事例を報告したり、今後の研修日程、内容等を周知したりして、参加を呼びかけている。
- 自由参加の研修については、各学校へ要項を送付している。

# 平成29～30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」 ～坂出市立東部小学校～

## 現状の課題と課題解決のための手立て

- ・ 学級担任が自信をもって授業を行うことができるよう、ALTや中学校英語教員との連携の在り方等について研修を深める。
- ・ 相手意識をもち、進んで英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする児童を育てるために、授業における価値ある活動を工夫する。

## 具体の取組の内容

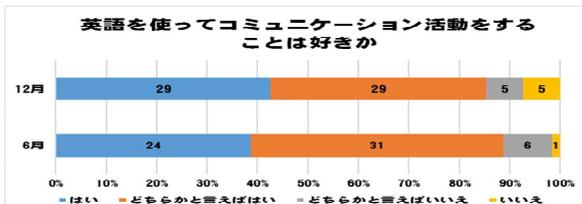
- 学級担任主体の授業づくり
  - ・ 学級担任(月2時間程度)、学級担任+ALT(月2時間程度)、学級担任+中学校英語教員(月4時間程度)の指導体制のもと、活動案に沿って打ち合わせを行い、お互いの役割を確認する。また、活動モデルを作成し、学級担任主導の授業づくりに努める。
  - ・ 校内実技研修、朝のイングリッシュタイム、自主勉強会等を通して、教員の英語運用能力の向上を図り、自信をもち主体となって英語の授業が行えるようにする。
- 他者と関わる楽しさが感じられるコミュニケーション活動の工夫
  - ・ 相手のことをもっと知りたい、自分のことをもっと知ってもらいたいと思える、価値(必然性や達成感)のあるコミュニケーション活動になるよう、教材・教具を工夫する。
  - ・ コミュニケーション活動時のめあてを確認したり、クラスルームイングリッシュを児童に広めたりすることで、グッドコミュニケーターを育成する。
- 中間評価や振り返りの場の設定
  - ・ 中間評価においては、「もっとうまく伝えたい」「こんな言葉を英語で話したい」という気持ちをもてるように、評価の観点や方法を工夫する。
  - ・ 1年間を通してリフレクションシートを活用し、振り返ったり、次時の目標を確認したりする場を設定する。



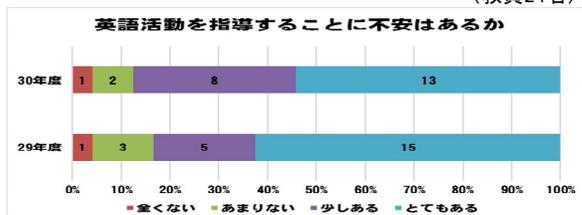
【ALTとの授業】

## 成果①

- ・ 交流活動を工夫することにより、コミュニケーション活動を行うことが好きになっている。(6年生66名、H30実施)



- ・ 継続的な校内研修等によって、教員の英語に対する苦手意識が少なくなり、進んで英語の授業に取り組むようになった。(教員24名)



## 成果②

- 教員から見た児童の変容
 

価値のあるコミュニケーション活動を行うことで、児童は聞き取れる英語が多くなり、友達の発言も意欲的に聞こうとするようになってきている。また、教員やALTに英語で聞き返す様子もうかがえる。このようにコミュニケーションを図る児童の姿は、他の教科でも見られるようになってきた。
- 管理職から見た教員の変容
 

教員は積極的に校内実技研修や放課後の自主勉強会(10月～12月で5回実施、参加率60%)に参加している。英語に関する興味・関心が高くなり、日常会話でも英語を使おうとしている。
- 中学校英語教員から見た教員の変容
 

英語運用能力が向上し、自信をもちクラスルームイングリッシュが使えるようになってきている。授業はテンポよく進められており、導入時にはゴールを明確に示すとともに、終末にはリフレクションシートを用いて振り返るという授業のデザイン化が図られている。

## 今後の課題・方向性

- ・ 「We can」の学習内容については、児童の実態を考慮し、教科や学校行事との関連を図る等、教材の配列を工夫して年間計画を組み立てる。
- ・ 教材やワークシート等は、系統性を考慮して作成し、学年や学級で必要に応じて活用ができるよう、教員間で共有する。
- ・ ALTや中学校英語教員とのTTが効果的に行えるよう、打ち合わせの時間を確保する。
- ・ 学級担任を中心に、教員の英語運用能力の向上や、クラスルームイングリッシュの活用に関する校内研修をより一層充実する。
- ・ 同じ中学校校区で情報共有を行う等、モデル校として地域全体の英語力の向上を目指す。

# 平成29～30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～高松市立川添小学校～

## 現状の課題と課題解決のための手立て

- ・英語指導経験の少ない教員が指導に不安感を持っている。→楽しく授業展開するためのチーム体制作り
- ・電子黒板やデジタル教材を効果的に活用できていない。→ICT機器を活用した楽しい授業作り

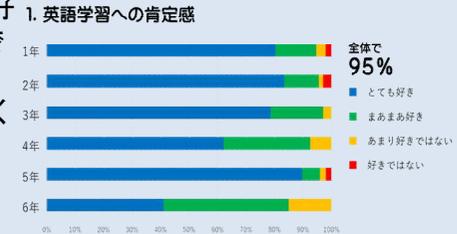
## 具体の取組の内容

- チームとしての体制づくり  
(担任や外国語専科が主体となって楽しく授業を展開する)
  - ・毎時間の指導案は、実践リーダーが作成し、共有ファイルに保存する。
  - ・教材、ワークシート、リフレクションシートは、学年団で作成する。  
→整備して、共有化を図る。
  - ・授業の打ち合わせは、放課後に学年団で一緒にする。
  - ・教員研修(指導力や英語力の向上研修、ICT機器活用研修)
- 楽しいコミュニケーションにつながるICT機器の活用。
  - ・映像を見ながら、歌やチャンツなどで、アルファベットと音と文字に慣れ親しむ。
  - ・電子黒板を用いた発表と振り返り  
→成果物を示して発表したり、良いところや改善点を見つけたりする。

## 成果③

### ◎外国語学習の肯定感の高まり (児童アンケートを活用)

- ・児童の英語に対する意識調査では、外国語学習が好きと回答した児童が全体で95%いた。外国語学習を肯定的に捉える児童が多く見られるようになった。



## 今後の課題・方向性

- ①高学年児童の実態に合わせて、授業をコーディネートする必要性
  - ・今年度導入された「We can!2」の教材が、これまで英語学習の積み上げがない6年生にとって難しかった。児童の実態に合わせて、授業をコーディネートする必要がある。
- ②教員一人一人の英語力や授業力を向上させる校内研修を積み重ねる。

## 成果①

- ◎教員の不安感の軽減や指導力の向上
  - ・教材をデータ化したり、教員のアイデアを共有化することにより、教員間の中でも、授業の流れが定着し、英語指導に対する不安感を軽減することができた。

## 成果②

- ◎ICT機器の活用により、視覚的に分かりやすい授業の実現
  - ・映像を見ながら、英語の音声やリズムを効果的に習得することができた。
  - ・児童の発表を映像に残すことで、成長を振り返ったり、改善点を見つけたりすることができた。

# 平成29～30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～さぬき市立長尾中学校～

## 現状の課題と課題解決のための手立て

生徒が積極的に英語を使用し、主体的・意欲的に学ぼうとする授業づくり  
～教材・指導方法・評価・振り返り方法の工夫～



## 具体の取組の内容

### ○生徒が積極的に英語を用いることのできる授業づくり

- ・英語が自然に使えるような活動や授業の工夫  
既習文法を用いた英語の歌、既習文法を用いたQ&A活動  
Classroom English だけに頼らず、ジェスチャーやICTを積極的に使用する
- ・Authentic materials を用いた言語活動やスピーキングテストの実施  
生徒の興味、生徒が英語を使いたいと思う場面設定の工夫  
生徒の失敗を許容し、生徒が積極的に既習表現を用いようとする雰囲気醸成

### ○生徒が自身の成長を客観的に把握できる自己評価シートの活用

- ・本時の課題表現の「理解度」、表現を使用しようとする「意欲」、使用した表現が相手に伝わり「コミュニケーションできた」、ペアやグループでの「協力度」を5段階で自己評価

## 成果①

◎生徒が普段の生活でも英語を使ったり、授業中のリアクションも英語で返ってきたりするようになった。

- ・コミュニケーションツールの一つとして、英語を楽しく学ぼうとしている
- ・言語活動やスピーキングテストに意欲的
- ・さらに高いレベルの英語表現を知りたいという動機付け
- ・英語を使わなくても意図が伝わることによる自信

## 成果②

◎県学習状況調査結果の数値向上

- ・「表現の能力」が県平均と比較し、経年データ、追跡データともに上昇

表現の能力	1年	2年
H28	-5.75	0.83
H29	-3.26	-3.49
H30	3.45	-0.49

## 今後の課題・方向性

①生徒同士が自然な状況で言語活動ができる場面設定の増加

- ・Authentic materials の精選、即興的な会話ができる場面設定および、それに伴う生徒の英語学習モチベーションの向上

②CAN-DOリストを利用した小中連携

- ・小学校に派遣されている教師を中心にリストを作成し、小学校においても見通しを持った指導を実践する

③効果分析の継続

- ・データ比較を始め、英検等の外部試験を積極的に活用することで生徒の英語力を分析し、指導改善に役立てる

# 平成29～30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～善通寺市立東中学校～

## 現状の課題と課題解決のための手立て

- ・「コミュニケーションにおける基本的な態度」と「対話の基本的なスキル」の習得が不十分
- ・小学校外国語活動で培われた素地をもとに積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする生徒の育成のための工夫

## 具体的取組の内容

### ○公開授業での実践

- ・I can～のトピックでOne Minute Monologue
- ・新出語句の学習 (Matching/Karuta/Pelmanism )
- ・Can you ～?を使ってペアで会話練習(Survey)
- ・写真カードを使って「なりきりインタビュー」
- ・インタビュー結果をレポート(Writing)

STEP 1 Survey about your friends

Class( ) No( ) Name( )

下の表に自分の答えを記入し、友達にインタビューをして、相手の答えを書き入れましょう。

(Ex)A: Can you ski? B:  Yes, I can. I can ski.  
 No, I can't. I can't ski.

A: Thank you. B: You're welcome.

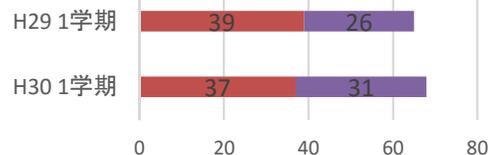
↓ O or X

Survey		①My answer	②Friend's answer ( )	③Friend's answer ( )	④Friend's answer ( )
1 Can you					
2 C__ you					
3 C__ y__					

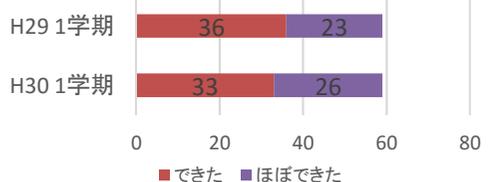
### 成果①

○小学校外国語活動で慣れ親しんだ表現、コミュニケーション活動を継続して取り入れながら、中学校の表現を加えて、ゆるやかにつながる授業構成を考えて実践した。生徒には、以下のような変容が見られた。

・自分の意見を自分の言葉で伝えられましたか。



・友達の考えをきちんと聞くことができましたか。



### 成果②

○生徒の変容

- ・自然に相づちを打ったり、適切な声の大きさで話したりするようになった。
- ・単語だけで表現していたのが、文で表現しようとするようになった。
- ・アイコンタクトをして、相手意識を持つて聞くようになった。
- ・聞き返したり確認したりして、対話を続けようとするようになった。
- ・未習の単語や表現でも教師のモデル対話から意味をつかむようになった。  
→推測する力が高まっている。
- ・今までは単語の意味や発音があいまいであったが、単語を繰り返し発音したり、コミュニケーション活動を続けたりすることで、単語の意味がはっきりとなり、正しい発音ができるようになった。  
→あいまいさを受け入れながら理解するようになった。

### 今後の課題・方向性

「コミュニケーションにおける基本的な態度」と「対話の基本的なスキル」が身につくにつがあるが、関連性のある質問をしたり、新しいトピックを提供したりして、対話を広げたり深めたりすることはまだ十分にはできていない。

それらのスキルを身に付けるために、

①多様なコミュニケーション活動の場面設定

- ・即興での会話
- ・スピーチ
- ・ディベート
- ・インタビュー

②CAN-DOリストの効果的な活用

- ・小中高連携
- ・補充的活動と発展的な活動
- ・ALTによるパフォーマンステストの継続的实施

③全国学力・学習状況調査や県学習状況調査を活用した「話す」能力の測定とPDCAサイクルを生かした授業改善等に取り組んでいく。